

内外交差点

観光MaaSとタクシーの未来 洲本市夜間移動実証も交えて

日高 洋祐氏 (MaaS Tech Japan代表) 第7/12回

こんにちは、MaaS Tech Japanの日高です。今回は「観光MaaSとタクシー」というテーマでお話しします。特に、弊社が兵庫県洲本市で実施した夜間移動サービスの実証実験を交えながら、観光地でタクシーが果たす役割と可能性を再整理したいと思います。

観光地では、施設と施設、宿泊地と飲食・繁華街などを結ぶ回遊性が重要です。しかし公共交通が充実していない夜間や閑静時間帯には移動手段が途切れ、観光者の行動が制限されるケースが多くあります。この弱点を埋めるのが、観光MaaSとタクシーの連携です。

【洲本市 夜間移動実証の概要】

まず、洲本市での実証実験事例をご紹介します。

2025年10月3日から、洲本市は国交省「共創モデル実証運行事業」に採択され、夜間シャトルバス・タクシーと予約・配車アプリを活用した夜間移動サービスを開始しました (<https://www.maas.co.jp/news/928134/>)。

本実証では、温泉街と繁華街、宿泊地を結ぶルートに乗降場を設定し、夜間シャトルバスを運行。タクシー配車をアプリで一元管理し、需要を可視化する仕組みも導入しました。廃止された深夜バスの代替だけでなく、来訪客の利便性向上とタクシー事業者の効率化を同時に狙う設計です。

特に注目すべきは、タクシー事業者にとって従来は「夜間台数確保が難しい」時間帯を、アプリ配車との統合で補完できる可能性を示した点です。

【観光MaaSにおけるタクシーの位置づけ】

洲本市の実証を踏まえて整理すると、観光MaaSとタクシーの連携には以下のような構図が見えてきます。

1. 夜間・深夜帯の補完交通としてのタクシー

公共交通が終わった後の移動需要を担うことができます。

2. 予約・配車インフラを使った効率化と可視化

アプリ経由でタクシーを呼べるようにすれば、来訪者の移動が予測可能になり、空車の無駄を減らせます。

3. 観光回遊ルートへの組み込み

観光地の魅力スポットを結ぶルート上にタクシーを配置すれば、観光者の回遊を促せます。

4. データ活用による需要発掘

実証で得られた運行データをもとに、移動パターン分析やサービス改善につなげることが可能です。

つまり、タクシーは「最終手段」ではなく、観光MaaSのハブとして機能できるポジションを持ち得ます。

【タクシー事業者に求められる具体アクション】

この観光MaaS+洲本実証を踏まえて、タクシー事業者として取り組める具体策をいくつか挙げます。

- ・観光協会・宿泊施設と共同した周遊プラン販売
- ・夜間の移動需要を見越した配車計画とドライバー配置
- ・MaaSアプリとAPI連携して、空車情報を外部に出す
- ・利用データを自治体・観光協会と共有して、回遊設計に参加

- ・定額観光タクシー・シャトル型サービス導入

こうした施策を通じて、観光MaaSの中にタクシーが不可欠な存在として組み込まれていきます。

【総括：観光MaaS時代におけるタクシーの役割】

洲本市の夜間実証は、観光地でタクシーと公共交通を組み合わせた移動ネットワークのモデルを実際に動かした先駆けです。

観光MaaSを成功させるには、“夜間空白”をどう埋めるか、回遊性をどう高めるかという設計が不可欠であり、その両方を支え得るのがタクシーです。

今後、観光MaaSの輪郭が少しずつ明らかになる中で、タクシー事業者は「運転するだけの存在」から、「観光回遊を設計できる交通パートナー」へと役割を拓けるチャンスを得ています。

今回は、観光に続いて、「福祉MaaS」あるいは「日常移動支援MaaS」との接点とタクシーの展開について取り上げていきたいと思っています。

